http://www.edu.pref.kagoshima.jp/ （通巻第１４３３号）

指導資料

鹿児島県総合教育センター

教育経営　第31号
－小，中学校対象－
平成15年11月発行

説明責任を果たす学級経営の在り方

いじめや不登校，学級崩壊，最近の児童生徒の意識や行動などは，児童生徒を取り巻く家庭や地域社会における生活などの社会環境の変化と密接にかかわっている。これらの課題解決のためには，学校と家庭・地域社会が連携し，協力することが大切であると中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」（平成10年）の中で述べられている。つまり，各学校ではどのような学校教育目標を基に，どのような教育課程を編成，実施し，成果を上げているかなど，保護者や地域の人に正確な情報を提示，説明し，協力を得ることが求められているのである。

そこで，本稿では学校の基盤である学級経営の在り方について，説明責任を果たすという視点から具体的に述べる。

1　説明責任が求められる背景

全職員が，学校経営への参画意識をもち，様々な教育活動を実践することが求められている。学級担任は，学級経営を通じてその一端を担っている。本来，学校経営への参画意識をもつということは，職員一人一人が校務分掌を企画・立案し，推進することである。このような共通理解の下，教育活動を推進することが説明責任を果たすことにつながるのである。

また，学校は教育目標や教育計画等の達成状況を自己評価するとともに，保護者や地域の人にもその達成状況を説明し，外部の評価を学校経営に反映させることで，更なる信頼関係が確立されるのである。

しかし，児童生徒の生きる力は，学校だけで育てられるものではない。学校が説明責任を果たし，家庭や地域社会の信頼を得ることで一層の協力を得ることができる。さらに，学校と家庭・地域社会が相互の信頼関係に支えられながら役割を分担することで，児童生徒の生きる力ははぐくまれるのである。

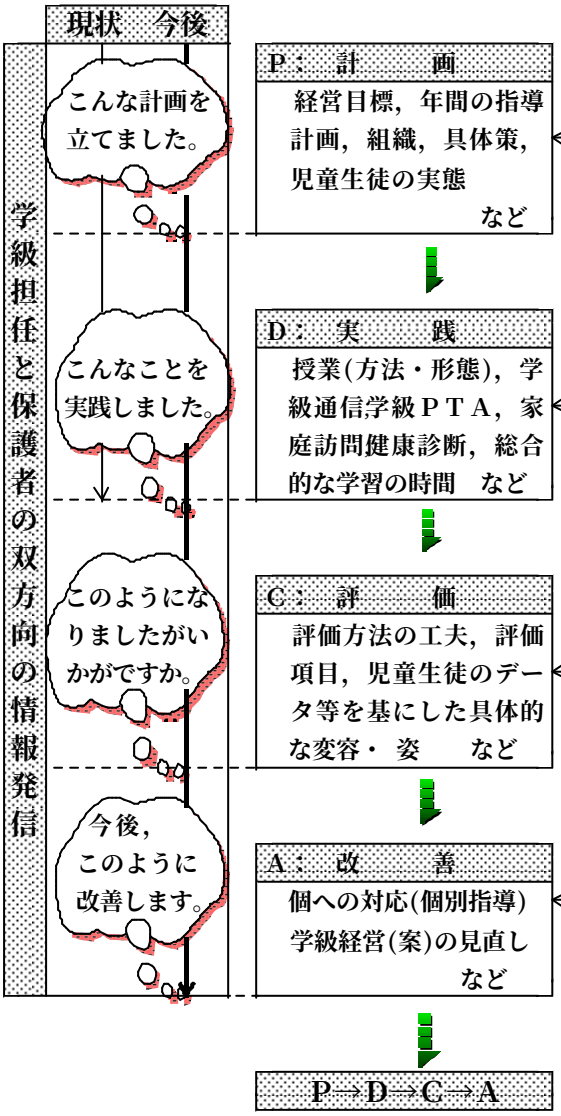
2　マネジメント･サイクルを取り入れた学級経営

学級担任は，学校教育目標を受けた学級目標の具現化のため，学級経営を Plan(計画)→ Do(実践)→ Check(評価)→ Action(改善)のマネジメント・サイクルの視点で実践し，その全プロセスに添って保護者に積極的に情報を発信していくことが大切である。

特に，今までＰ(計画)とＤ(実践)は日常

的に説明されてきたが，今後はＣ(評価)とＡ(改善)にも積極的に取り組み，児童生徒一人一人の変容が具体的にとらえられるように保護者にしっかりと説明することが大切である。また，保護者の意見等を取り入れるなど，双方向の情報発信をすることが相互の信頼関係を深め，教育活動の成果を高めることにつながる。

【学級経営の流れ】



○　個に応じた具体的な改善を図る。

当初，計画された目標が達成できなかった場合，児童生徒の一人一人の課題に応じた改善ができるように，今までの取組の分析を十分にし，保護者の協力を得ながら具体的な個別指導の方法を構築する。

【学級担任の基本姿勢】

○　学級経営の明確なビジョンを立てる。

学級担任は，児童生徒の実態把握や保護者へのアンケートを実施するなど，育成する児童生徒像を明確にしながら学級経営案や年間指導計画を作成する。そして，取組の成果を具体的な姿で保護者に説明し，改善に結び付けるように学期ごとの構想を立てることが大切である。

○　情報を発信し，信頼関係の確立を図る。

学級担任は教育活動のねらいを明確にし,確実に実践し,保護者に情報を発信する場を設ける。その際，保護者の思いをしっかりと聞き，互いに協力しながら児童生徒の指導に当たることが,信頼関係に基づく人間関係の構築にもつながる。

○　教職員・学級間の連携を図る。

校内において，他学年や他学級間で生徒指導や学習指導等での情報交換を行い，連携を図る必要がある。その理由として，児童生徒の問題行動に対してチームを組んでの対応や，少人数指導や習熟度別指導の拡大等による学習指導など，学級の枠を越えた活動が増えてきていることが挙げられる。さらに，中学校においては教科担任制や選択教科が拡大する傾向にあるので,教職員が連携し，情報交換を密にすることが大切である。

○　児童生徒の姿がみえる具体的な評価をする。

教育活動の実施後の評価については，日々の授業に児童生徒が意欲的に参加しているかを教師が観察し，評価することが大切である。

その評価を客観的なものにするためにも，評価規準に基づく絶対評価，児童生徒の自己評価や相互評価，さらには，授業に対する児童生徒の評価を活用することが大切である。この評価を，具体的な児童生徒の姿として保護者に説明する。

3　マネジメント・サイクルの視点に立った学級経営の具体例

(1)　学級経営案の工夫（中学校）

学級経営案は，学校教育目標，学年教育目標，教科の指導目標などとの関連を図りながら立案されることが大切である。そこでは，どのような力を生徒に身に付けさせたいのか(P)，それが具体的にどのように実施に移され(D)，どのような成果を収め，どのような課題が残されているのか(C)，そして，具体的な解決策はどうするのか(A)，などの情報を保護者に提供することが求められている。

また，学級経営案を年度初めの学級ＰＴＡや学級通信等で保護者に周知し，学期や月ごとに学級経営を評価する。その際，学級経営案の形式を職員間で検討し，共通理解を図ることも大切である。そして，保護者の理解を求めるとともに，保護者からの意見をフィードバックし，学級経営の方針を改善していくことが，信頼を得ることにつながる。

平成 15 年度　○○立○○中学校　　学　級　経　営　案　　1年○組　　担任○○○○

学校教育目標	・進んで学び，深く考え，豊かな心をもち，思いやりのある生徒の育成				
学年教育目標	・筋道を立てて根気よく考え，相手の気持ちを考えて行動する生徒の育成				
学級の実態	【学習面】明るく素直な生徒が多いが，学習活動に消極的で，根気と集中力を育てる必要のある生徒がいる。 【生活面】行動傾向等については，他の生徒の気持ちを十分に考えた行動				
学級教育目標	1　自ら学び，進んで行動する生徒 （以下略）	具体的な目標	1学期評価	2学期評価	3学期評価
		1 計画を立てて進んで学習する	④３２１	４３２１	４３２１

主に
P(計画)

内　容	具体的な経営や指導の重点	評価・改善　（1学期）	2 学 期	3 学 期
学習指導	生徒の個に応じた学習をするための少人数指導やＴＴを導入し，基礎学力の定着を図る。	・　班活動は活発だが一人学びを身に付けるために，放課後等に個別指導を実施する。		
生活指導	構成的グループエンカウンターを帰りの会で活用し，人間関係づくりに努める。	・　学級の活動後，振り返り意見交換の時間を設定する。		
生徒理解	生活の記録や教育相談等を充実し，理解に努める。	・　作業時間や休み時間に師弟同行に努め理解を深める。		
集団の育成	諸活動に班活動を取り入れ，活発な学級集団づくりを図る。	・　係活動で，よさを認めた相互評価を教室に掲示する。		
保健指導	健康観察を入念に行い，保健面の予防や体力づくりの生活化を図る。	・　歯磨きの取組を，学級会で話し合い具体策を立てる。		
環境整備	生徒の自主活動を促す教室環境を目指し，生徒が工夫した教室設営に努める。	・　学級園の植え替えの準備を全員で計画的に実施する。		
家庭との連携	学級通信学級ＰＴＡ教育相談等を生かし，保護者の関心を高	・　学級通信に保護者欄を設け意見等を反映させる。		
学級事務	事務処理は，計画的効率的に行う。	・　諸帳簿を正確に整理するために副担任と連携を図る。		

主に
D(実践)

主に
C(評価)とA(改善)
これは，説明責任を果たすために，特に大切である。
また，中学校は教科担任制であるので学習指導は教科担任との連携が重要になってくる。

(2)　学級ＰＴＡの工夫（小学校）

学級ＰＴＡは，「この学級なら安心して我が子を託せる」といった保護者の信頼を得る直接場面である。したがって，学級担任の指導方針，教育活動の推進，児童の変容を基にした評価，課題の改善を説明する力が問われることになる。

さらに，保護者から出された意見を取り入れる姿勢を持つことが，信頼関係を深め，協力体制を生み出すことにつながる。

ここでは，授業参観の実施前に略案で授業のねらいを保護者に示し，参観終了後の学級ＰＴＡで意見交換をして，保護者の理解を得るまでの過程を参考として示す。

【Ｐ（計画）】

アンケートなどで授業参観への要望や家庭学習の在り方の悩みなどを事前に集約し，まとめておく。

1　学級経営の重点課題
「基礎学力の向上」

【Ｄ（実践）】

2　算数の授業参観を通して

(1)　授業のねらい

(2)　指導方法の改善

ア　ＴＴによる学習指導を導入
生徒一人一人に応じた指導を基に基礎・基本の確実な定着を図る。

イ　家庭学習との関連について
「家庭学習の手引き」を通して学習内容のポイントを保護者に示し，復習のプリントを家庭でも取り組めるようにする。

【Ｃ（評価）】

- 授業参観の感想を保護者に求める。
- 授業後の児童の自己評価カードを保護者に提示する。
- 一人一人のよさや努力が認められる評価更に努力が必要な点の具体的なデータを基に説明する。（評価規準，目標に準拠した評価の重視）
- 家庭学習の習慣化を図る必要がある。

【Ａ（改善）】

- 授業参観後保護者に意見等を求める。
- 理解度に個人差があるので，学習プリントを習熟度別に活用できるものを準備する。
- 保護者の感想を基に放課後の時間を利用し，質問教室を開設し，個別指導をするなど，補充対策を推進する。
- 家庭学習を充実するためにも，児童のつまずきの内容と家庭での指導のポイントを学習ノートに示し，保護者の協力を依頼する。

学級担任が，学級経営について保護者に主体的に説明することが信頼を得ることにつながる。確実に保護者の信頼を得るためにも，よりわかりやすい表現で資料を作成したり，職員研修や情報交換を密にしたりすることで共通理解を深め，信頼性の高い情報を提供し，説明責任を果たすことが求められている。

したがって，全職員が学校経営の参画意識をもち，共通実践をすることで，説明責任を果たす学級経営は実現できるのである。

【参考文献】

無藤隆他 編著『学級の壁を超えた保護者、地域との連携』平成14年　ぎょうせい

（教育経営研修室）